

国際会議に参加して

情報工学府情報システム専攻M2 田中 幸平



はじめに

平成25年5月20日〜24日にアメリカのマサチューセッツ州ケンブリッジで開催された国際会議15th Workshop on Advances in Parallel and Distributed Computational Models (APDCM 2013)に参加し、研究発表を行いました。

研究内容

私の所属する研究室ではナチュラルコンピューティングに関する研究を行っております。ナチュラルコンピューティングとは自然界の様々な生命活動の仕組みを用いて計算に利用しようという研究分野です。

現在のトランジスタ等を用いた電子回路による一般的なコンピュータでは回路をこれ以上細かくすることが困難となりつつあり、理論的境界に近づいております。そのためこれまでのような性能向上が見込めないことがわかっております。そこで、この性能向上の限界を打ち破るために現在のコンピュータとは全く異なった方式で計算を実行する方法の研究が行われており、そのひとつがナチュラルコンピューティングという分野になります。

私はナチュラルコンピューティングの中でも膜計算と呼ばれる生物細胞の機能や構造を用いて計算を行うモデルに着目し、そのモデル上で動作する計算システムの提案を行っております。

海外にて

ケンブリッジは全米を代表する大都市であり、ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学がキャンパスを構えており、教育・科学研究水準の高さを生かしたハイテク産業も発展しており、数社の有名企業が同市に本社を置いています。

また、アメリカで最も歴史の古い街の1つであるボストンがチャールズ川を隔ててケンブリッジの対岸にあり、地下鉄を含む交通網も備えており、観光客にとってケンブリッジは人気の都市となっています。

国際会議にて

今回の国際会議はフランス人や中国人などの世界各国の研究者やインテル社やマイクロソフト社などの民間の研究者の方々が参加しており、大規模な国際会議でした。

また、今回の国際会議の前に私は沖縄での国際会議に参加したため、その経験を生かして、自分から積極的に様々な研究を聞く機会を設けることにしました。そして、じかに研究者たちのお話を聞くことで、様々な考え方を吸収することができ、今後の研究活動の刺激となる体験にすることができました。

また、発表では、しっかりと練習を行った成果もあり、あわてず落ち着いて発表を行うことができました。

そして、発表の後に基本的な質問を受けましたが、なんとか英語で回答することができました。

海外での国際会議に初めて参加し、多くの聴衆の前で英語発表をするという貴重な体験ができました。国際会議に参加するための準備は非常に大変でしたが、終わってみるとあっという間で、次はもっといい発表にしたいという次へのモチベーションが出てくるのを強く感じました。

最後に

まず、私の研究や論文執筆、発表を行うにあたり、適切な指導並びに助言を与えて下さいました藤原教授に心から感謝いたします。

また、日頃から私の心配をし、大きな支援を送ってくれた両親に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。



ハーバード大学
ワイドナー記念図書館